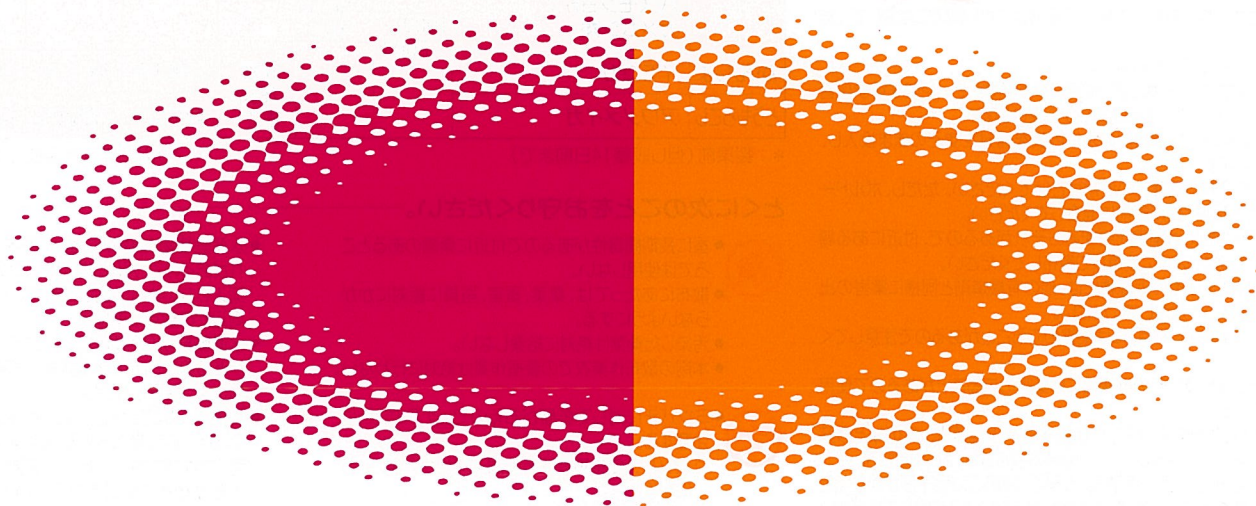


“年輪”が生きている。

このフルーツフィールドに



ピレスロイド伝説



®は住友化学(株)の登録商標です。

パーマチオン® 水和剤

りんご、なし、かき、もも、くり、大豆、
かんしょ等の主要害虫防除に**パーマチオン®** 水和剤

有効成分：フェンバレート…10.0% MEP…30.0% 人畜毒性：医薬用外劇物

特 長

- 1 広い範囲の害虫に有効です。
- 2 接触により極めて強い殺虫力を発揮します。
- 3 優れた残効性により散布回数の軽減が可能です。
- 4 他剤に感受性の低下した害虫にも有効です。
- 5 被害防止につながる特異な忌避作用があります。

**【使用上の注意事項】(抜粋)**

- 水溶性内袋入りの製剤を使用する場合は、次の事項に注意してください。
 - 内袋はぬれた手で触れない。
 - 外袋の開封後は一度に使い切ることが望ましい。やむを得ず保管する場合でも、できるだけ速やかに使い切る。
 - 薬液調製の際は、容器内の水に内袋を開封せずそのまま投入し、よく攪拌する。
- アルカリ性の強い農薬との混用はさけてください。ただし、ボルドー液との混用の際は使用直前に混合してください。
- あぶらな科作物には葉害を生ずるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布してください。
- りんごの旭種及びその近縁種には、他の有機燐剤と同様に葉害の出ることがあるので注意してください。
- ももの初期散布(5~6月)には葉害の生ずることがあるので注意してください。
- なしの早生赤種及びその近縁種には葉害の生ずることがあるので使用はさけてください。
- なしの新葉展開期(4~5月)に使用すると、展開葉に、黄化などの葉害を生ずることがあるので、この時期の散布はさけてください。
- 本剤は自動車、壁などの塗表面、大理石、御影石に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないよう注意してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

適用害虫と使用方法

使用方法：散布

作物名	適用害虫名	希釈 倍 数 (倍)	使用 液 量	使 用 時 期	本剤の 使用回数	フェンバ レート を含む農薬 の総使用回数	MEPを 含む農薬の 総使用回数
りんご	キンモンホソガ シンクイムシ類 ハマキムシ類	1000～ 2000	200～ 700ℓ /10a	収穫 45日前 まで	3回以内	3回以内	3回以内
	モモチョッキゾウムシ モンクロシャチホコ	1000					
	アブラムシ類						
な し	カメムシ類 アブラムシ類 ニセナシサビダニ シンクイムシ類	1000～ 2000		収穫 30日前 まで	5回以内	5回以内	6回以内
	ハマキムシ類 ナシグンバイ ナシホソガ ナシチビガ	1000					
か き	カキノヘタムシガ アザミウマ類	1000～ 2000		収穫 45日前 まで	3回以内	3回以内	3回以内 (樹幹処理 は2回以内)
	イラガ類 ミノガ類	1000					
	コガネムシ類	2000					
	ハマキムシ類 カメムシ類	1000～ 2000					
も も	シンクイムシ類 モモハモグリガ アブラムシ類	1000		収穫 7日前 まで	6回以内	6回以内	6回以内 (樹幹処理 は1回以内)
く り	クリイガアブラムシ クリシギゾウムシ		*	4回以内	4回以内	4回以内 (樹幹処理 は1回以内)	
だ い ず	マメヒメサヤムシガ ダイズサヤタマバエ	1000～ 2000	100～ 300ℓ /10a	収穫 21日前 まで	3回以内	3回以内	4回以内
	シロイチモジマダラメイガ マメシンクイガ ハスモンヨトウ カメムシ類						
かんしょ	イモコガ			収穫 7日前 まで	5回以内	5回以内	5回以内
とうもろこし	アワノメイガ						

*：裂果前(但し収穫14日前まで)

平成22年11月現在の登録内容

とくに次のことをお守りください。

- 蚕に長期間毒性があるので付近に桑園のあるところでは使用しない。
- 散布にあたっては、桑葉、蚕室、蚕具に絶対にかからないようにする。
- 汚染した桑葉は絶対に給桑しない。
- 本剤の散布作業衣での養蚕作業は絶対に行わない。



- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意する。
 - ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにする。
 - 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさける。
 - 養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努める。



- 水産動植物(魚類)に強い影響を及ぼす恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用する。養殖池周辺での使用は避ける。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。

●空袋は園場等に放置せず適切に処理してください。